

郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財 長泉寺のコウヤマキ

今月紹介するのは、町内でもっとも古い木の一つである長泉寺のコウヤマキです。

室町時代に、横田家に代わり上三川城主になった今泉家の菩提寺である長泉寺は、

上三川城内の寺院としては新しく、1504年に建立されました。長泉寺には、

一面観音菩薩坐像、町指定史跡の上三川城主今泉家累代の墓があり、宇都宮家の

南の要として栄えた、今泉家の繁栄を今に伝えていきます。

このコウヤマキの木は本堂の正面に位置し、その様子は古木の風格が漂います。

さてコウヤマキは、マツ目コウヤマキ科の常緑高木で、

育つと高さ30m以上、直径1mに達するものがありますが、

大木になる割には成長が非常に遅いといった特徴があります。北は福島県から南は九州までの山地に自生しており、その名の通り、

和歌山県の高野山周辺に多く見られることからこの名前がつけられたのです。なじみのない木ですが、昔は柱や船棺の材料などに使われていました。

長泉寺のコウヤマキは、高さが約18m、推定樹齢が500年。2本の木が癒着

したもので、まるで1本のようにはみえます。昭和57年の台風10号により、西側の幹が倒れたので補強しました

が、このとき折れた枝の年輪から推定すると、1504

年に上三川城主今泉盛朝が長泉寺を建て、天英和尚を迎えて開山した時、和尚自ら植えた記念の木との伝承による樹

齢とほとんど一致します。

このように歴史のある木ですが、この木は古くから上三川

七銘木の一つとして天狗の宿り木といわれ、これに係わる伝説が



2本の木が癒着したコウヤマキ

残されています。長泉寺を開いた天英和尚は、国中にも名の知れた名僧で、ある日天空と名乗るものが現われ、和尚の元で修行をしたいと申し出ました。和尚が快諾すると、天空は五年もの長期間にわたって仏教の修行をしました。そして全ての修行が終了すると、天狗に姿を変えて、和尚に感謝の印として「火防除」と書かれた木印を残し、姿を消しました。その後何か異変があったときは、必ずこのコウヤマキの周辺で天狗から霊験があらわれたといわれています。

この話にはもう一つの話も伝わっていますが、いずれにしても500年もの長きにわたり、人々に愛された木であることは変わりありません。

安土・桃山時代					室町時代											時代					
1590	1585	1583	1582	1576	1572	1558	1551	1549	1526	1504	1477	1467	1455	1441	1438	1392	1380	1351	西暦		
天正18	天正13	天正11	天正10	天正4	元亀3	永禄元	天文20	天文18	大永6	永正元	文明9	応仁元	康正元	嘉吉元	永享10	元中9	康暦2	観応2	元号		
豊臣秀吉の小田原を攻め、北条氏を滅ぼす。	北条氏直が大軍を率い、宇都宮に迫るものの退却する。	後北条氏と東国領主との合戦(沼尻合戦)が始まる。	織田信長、京都本能寺にて自害。	小山城が北条氏に攻略される。	北条氏政の命で、北条氏邦・太田氏房の軍勢が、多功城に攻め入る。	上杉謙信の軍勢が多功城に攻め入る。	上三川城主今泉泰高・泰光多功勢応援のために出陣。	壬生綱雄が北条氏康の意を受けて宇都宮城に入城。	喜連川五月女坂の合戦。今泉泰高・泰光親子、多功長朝・房朝親子が奮戦。宇都宮家当主尚綱は那須軍の粘々瀨弥五郎の矢に当たり戦死。	上三川城主今泉盛高、合戦で討ち死。	宇都宮忠綱と結城政朝、芳賀興綱が河内郡横川郷猿山で戦つ。	上三川城主今泉盛朝により建立される。このころ長泉寺のコウヤマキが今泉盛朝によって植えられたという。	上三川城主今泉盛泰らが討死するといつ。	上州川曲の合戦に際し、	享徳の乱が始まり、関東が戦乱状態になる。	嘉吉の乱。將軍足利義教が暗殺される。	永享の乱。幕府鎌倉方足利持氏を討つ。	南北両朝統一。	裳原の戦い。宇都宮氏、小山氏に敗れる。	駿河薩埵山にて足利尊氏の軍勢が弟直義の軍勢を破る。この戦いで上三川城主横田貞朝が尊氏方で活躍する。	で き こ と